

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19310158

研究課題名（和文）：多言語地域における言語教育カリキュラムの開発―日越地域共同研究―

研究課題名（英文）：Development of language education curriculum in multilingual regions by the joint research between Japan and Vietnam

研究代表者

村上 呂里（MURAKAMI RORI）

国立大学法人琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：40219910

研究代表者の専門分野：言語教育

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：多言語社会・カリキュラム開発・地域連携・地域語・民族語

1. 研究計画の概要

多言語地域である沖縄とベトナム北部山岳少数民族地域との地域共同研究により、多言語社会を豊かに切り拓く言語教育カリキュラム開発の基本的視点と構想を実践的に提案する。その際、小学校における授業を共有し、授業研究会を中核に据え、研究を進める。

2. 研究の進捗状況

本研究では、授業と学びの場を共有する「カリキュラム実践」研究（佐藤学『カリキュラムの批評』世織書房、1996）という立場に立ち、研究を進めている。多言語地域である沖縄、東京新宿区、ベトナム北部山岳地域の小学校で研究授業を行い、日本・ベトナム双方の研究者・小学校教員との共同授業研究会を計6回積み重ねた。とりわけ、今年度は、初めてベトナムの小学校で日本・ベトナム双方の教員が4つの提案授業を行い、共同授業研究会を行った。（1）日本・ベトナム各々の教師による異文化理解と多文化共生をねらいとした「地理」の授業、（2）ベトナム人教師による民族語を教授言語としたベトナム語授業、（3）宇宙の誕生から人類の誕生、そして民族の交流の跡を辿り、生命の尊厳に目覚めさせ、多民族共生の意義を深めることをねらった総合学習「太陽と山にくらす人々」の授業、の4つである。共同研究会を積み重ねることを通して、①ベトナムでは未だ一般的な伝達注入式授業から学習者を主体に据えた対話型授業への転換していくこと、②マイノリティの学習者の母語を教授言語とするバイリンガル教育の意義として、親の文化の尊厳を守ることによる学習者の自尊感情の育成を根源に据えること、③学習者

の思いや生活を表現する作文を学習材とし、そこからカリキュラムを組み換えていく対話生成型カリキュラム編成力を教員の実践力に位置づけていくこと等の基本的視点を明らかにした。沖縄地域では、地域言語文化の系統的学習の単元構想を示す副読本を作成中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展していると考えられる。ベトナムの師範大学および小学校と連携し、授業と学びの場を共有して共同研究を進められたことはアジア地域における国際教育研究交流としても画期的であり、本研究で行った研究授業については教育改革に取り組むベトナムの新聞や教育雑誌でも紹介された。授業研究会の積み重ねを通して、カリキュラムの基本的視点と構想を実践的に提起できている。

4. 今後の研究の推進方策

（1）9月に、ベトナムにて第7回共同授業研究会を持つ。

（2）（1）を踏まえ、研究を統括し、成果をまとめ、討議するシンポジウムを12月に沖縄で持つ。

（3）研究成果を学会誌に発表する。

（4）最終の研究成果報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

① 村上呂里、単元「あけもどろの花」一小

学生による沖縄古典文学『おもろ』群読の試み、招待論文、査読有、日本国語教育学会『国語教育研究』、2008年1月号、4-9頁

〔学会発表〕(計2件)

- ① □ 村上呂里、沖縄アジアへ、多言語社会をのぞむ、第10回多言語社会研究会沖縄例会、2009年9月13日、沖縄教育福祉会館
- ② □ 西岡尚也、多民族教育における地球儀活用の有効性—新宿区立大久保小学校の事例を中心に、沖縄地理学会、2009年7月26日、沖縄国際大学

〔図書〕(計5件)

- ① 村上呂里・西岡尚也・那須泉・善元幸夫、多言語地域における言語教育カリキュラム開発—日越地域共同研究・研究成果中間報告書、2010年3月、全123頁
- ② 村上呂里他(共著)、沖縄タイムス社、融解する境界—やわらかい南の学と思想2、2009年5月、74-83頁
- ③ 村上呂里・西岡尚也・那須泉、多言語地域における言語教育カリキュラム開発—日越地域共同研究・研究成果中間報告書、2009年3月、全123頁
- ④ 村上呂里他(共著)、溪水社、国語教育を国際社会へひらく、2008年3月、124-144頁
- ⑤ 村上呂里(単著)、明石書店、日本・ベトナム比較言語教育史—沖縄から多言語社会をのぞむ、2008年3月、全455頁

〔その他〕

- ① Nguyen Thi Nhung (タイグエン師範大学教授・研究連携者)、「桜の国で感じたこと」、『タイグエン新聞』、2009年11月7日付け
- ② 佐渡島紗織、[書評]村上呂里著『日本・ベトナム言語教育史—沖縄から多言語社会をのぞむ—』、全国大学国語教育学会学会誌『国語科教育』No.66、2009年9月、84-86頁